

放射線30—35%遮蔽

創造科研 作業者向けズボン発売

【東大阪】創造科学研究所（大阪府八尾市、岩村広子社長、072・998・4364）は、放射線を約3割遮蔽できるズボン（写真）を発売した。試作品を用いた実験で約30—35%の放射線遮蔽率を確認した。

ズボンは衣服の上から身につけ放射性物質を含む土などが表面に付いて

も洗い流せる。重さは約1キログラム。サイズはS、M、L。子ども、女性、東日本大震災の被災地での作業従事者への販売を見込む。価格は1着4万5000円。

放射性遮蔽ズボンは、エヌケーコーポレーション（愛知県岡崎市）が製造する。ホウ酸水溶液を噴霧したポリエステルの



綿、活性炭を塗布したポリプロピレン不織布入りのパックで放射線を遮蔽する。パックはズボンの内側に収納し取り外せる。ズボンの表面はポリウレタン、内側は綿で、側面は全開できるファスナーで着脱を容易にした。実験では、線源から1メートルの放射線量は平均毎時1・7ミリシーベルト。ズボンを通して線量を測定すると平均値毎時1・08ミリシーベルト・13ミリシーベルトに下がった。創造科学研究所の岩村淳一取締役（元近畿大学教授）は、放射線遮蔽効

果について「ポリエステル綿のホウ素、活性炭に放射線が衝突し放射能が弱まるため」と見ている。